

1. 建物概要

建物名称	菊川市災害対策本部棟・体育館	BEE	2.2	BEEランク	A	★★★★
------	----------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.1	/5	よい     
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.3	/5	よい     
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8	/5	ふつう     
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.3	/5	ふつう     
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	4.1
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) (※下記記載例は削除し今回計画の環境配慮概要を自由記述) ①外皮の断熱性能を高め温熱環境の向上。 ②事務室の外壁に開口部を多く設け、照明負荷を低減。 ③外部開口部にブラインド設置。 ④耐久性の高い材料の使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤現状の敷地周辺環境を変えないようシンプルな外構計画。 ⑥施設用途を考えた植栽による敷地内環境の向上。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの効率化/⑩効率の運用) ⑦Zeb readyを目標とした省エネ計画の作成。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水器具の採用。 ⑫リサイクル品、合法木材、再利用可能製品の採用。 ⑬有害物質を含有しない建材の採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭一次エネルギーを抑える為、リサイクル建材を採用。 ⑮計画において配慮した内容はないが、敷地外周の状況を含めて計画。		Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
		Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
		LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
		LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
		LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	4.3
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯構造計算において割増係数を考慮。 ⑰自家発電設備、受水槽の再利用、マンホールトイレ等、災害対策本部棟として機能できる設備を設けた。		Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.8
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法円滑化基準の計画とした。 ⑲和室の休憩室を設けた。 ⑳PC梁の採用により2F事務室の空間を広くとった。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑屋根のある屋外歩廊を設け、地域の活動上のアメニティに貢献する。		Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱/⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
		Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.3
 ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉒現状の敷地環境を変えないようシンプルな外構計画とした。 ㉒周辺環境に溶け込む外装色に配慮した。 ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉕造作材に静岡県産材を採用。 ㉖現状の敷地環境を大きく変えない外構計画とした。		Q-3 1 2 3 3.2 ⑥	⑥ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
		LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2 ⑮	⑮ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

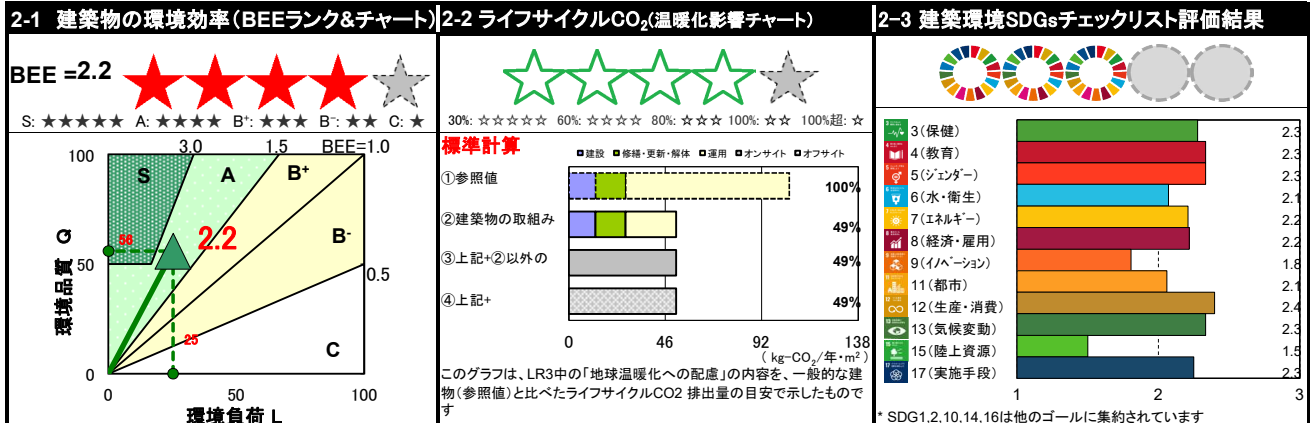
CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

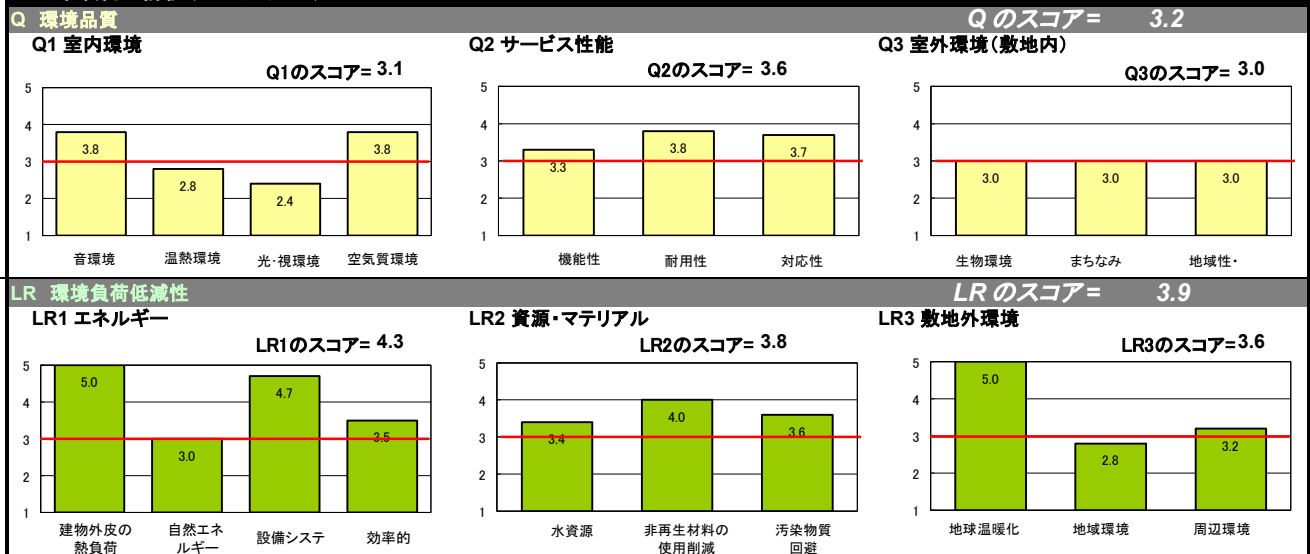
■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	災害対策本部棟・体育館	階数	地上2F
建設地	静岡県菊川市堀之内61番地	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	10 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	
竣工年	2027年6月 予定	評価の実施日	2025年3月14日
敷地面積	4,715 m ²	作成者	渡邊吉実
建築面積	1,759 m ²	確認日	
延床面積	2,376 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
これは、CASBEE静岡(2021年度版)による評価結果です。 災害時の拠点と共に地域の集まれる場として無停電時の対策や太陽光の利用等で周辺環境にやさしい建物になるよう配慮した。		
Q1 室内環境 用途上、音が響きやすい為、吸音材を多用した。	Q2 サービス性能 災害対策として天井を張らないことで空間が広がった。 災害時の拠点として維持管理がしやすい仕上とした。 無停電電源が確保できるように自家発電設備等の対策を講じた。	Q3 室外環境(敷地内) 地域環境を阻害しないよう、外観の色彩や建物配置に配慮した。
LR1 エネルギー 建物の断熱性を高める仕上げとした。 また太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを利用する。	LR2 資源・マテリアル 敷地内にマンホールトイレを設置し、排水に雨水を利用する。 エコマークやリサイクル品等の材料を多用し、自然環境に配慮した。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量を下げ、地球環境に配慮した。 太陽光パネルを片面配置にし、周辺への光害に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される